

## 大学院経済学院の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院経済学院では、学位授与方針で掲げる人材を育成するため、以下の特色ある取組みにより各専攻の教育課程を編成し、実施します。

### 【国際性の涵養】

- ・ 現代経済経営専攻では、一部の科目に関して英語で授業を行い、コミュニケーション能力も含めた国際的に活躍できる能力を育成する。

### 【特色ある教育プログラム】

- ・ 大学院経済学院では、職業に従事しながら研究をすることを希望する学生の学習機会をいっそう拡大する観点から、長期履修制度を導入している。長期履修学生に認定された場合、標準修業年限（修士課程2年、専門職学位課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められる。
- ・ 学会発表奨励制度を設置し、修士課程・専門職学位課程・博士後期課程在籍学生を対象として、学会発表（全国大会）に関わる費用の一部を助成することで研究成果の公表を推進している。
- ・ 会計情報専攻では、最先端の実務とのリンケージを図るべく、外部の実務家・研究者と密接に連携し、セミナーを開催している。

### 【キャリア形成の支援】

- ・ 会計情報専攻では、他の会計専門職大学院と連携し、監査法人へのインターンシップを実施している。

### 【教育の質保証】

- ・ 高い教育の質を保証するため、各授業でアンケートを実施し、授業改善に役立てている。
- ・ 会計情報専攻では、授業のピア・レビューとともに、外部評価者によるレビューを実施している。また年に2回、学生との懇談会を開催している。
- ・ 現代経済経営専攻では指導教員、会計情報専攻では担任教員を配置し、学習や進路相談等の学生支援を実施している。

### 【学修成果の評価の方針】

#### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる現代経済経営専攻及び会計情報専攻の「涵養する人物像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学習成果の達成度に応じて行うこととする。
2. 本学院における授業科目では成績分布の目安は示さない。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評

価の結果を、現代経済経営専攻については経済学院FD委員会、会計情報専攻については専門職大学院成績評価会議において学期ごとに検証し、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼する。

この検証結果については、現代経済経営専攻については経済学院教授会、会計情報専攻については専門職大学院FD委員会に報告する。

## II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定める。

## 現代経済経営専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代経済経営専攻では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

### ■修士課程

- ・ 必修科目である「現代経済経営演習」では、修士論文等の執筆に向けた専門的な指導を行う。
- ・ グローバルな経済を的確に見通すために、多彩な科目を開講する。
- ・ 本院の他専攻の授業科目、本学経済学部の授業科目、本学他院等の授業科目（大学院共通授業科目を含む）、および、協定大学大学院の授業科目を一定範囲内で履修することができ、幅広い観点から学習できる。
- ・ 修士論文発表会を実施し、指導教員以外からのアドバイスを受けることにより、優れた修士論文の作成を支援している。
- ・ TA業務を通じて、優れた教育能力・コミュニケーション能力の向上を図る。

### ■博士後期課程

- ・ 博士後期課程では、「演習」と「特別研究」の授業が展開される。
- ・ 「演習」では、専門分野の先端的研究とともに、研究方法、論文作成、研究発表の方法等を学習する。
- ・ 「特別研究」（ワークショップ）では、複数指導体制を採用し、全国および海外の研究機関から一流研究者を講師として招聘することもある。研究進捗報告を行うことで、専門領域や学問的関心の異なる教員集団から多面的かつ積極的な刺激を受けることができ、自らの研究のクオリティーや生産性を一層高める。
- ・ 公開研究発表会（博士論文研究発表会）を実施し、指導教員以外からのアドバイスを広く受けることにより、優れた博士論文の作成を支援する。

- ・ TA・RA 業務を通じて、教育者として必要となる高度な教育能力・コミュニケーション能力、研究遂行・管理能力の向上を図る。

## 会計情報専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

会計情報専攻では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

### ■ 専門職学位課程

- ・ すべての科目を「基礎科目」「応用科目」「実践科目」として配置し、入学者のニーズに応じてスムーズな学習が可能となるようカリキュラムを構成している。
- ・ 「財務会計」「管理会計」「監査」「税務会計」の4分野をバランスよく配置し、会計専門職として備えるべき多様な知識を提供している。
- ・ 会計専門職として必須の要件と考える「会計職業倫理」を必修とし、社会に貢献するための倫理観・社会的責任感を涵養する。
- ・ 経済のグローバル化に対応できるよう「英文会計」を必修とするなど国際的に活躍できる能力の向上を図る。
- ・ 総合大学としての強みを最大限に活かし、本学院の他専攻（現代経済経営専攻）を始めとして、他学院・研究科を含めた幅広い履修を可能としている。
- ・ グローバルな視点から地域社会に貢献できる会計専門職の能力の向上を図る。
- ・ 外部組織との連携を強化し、先端知識の提供を図る。
- ・ 少人数教育を徹底し、アクティブラーニング等を踏まえた効果的な授業を提供する。